

### 第3回集会 (SADI 原村、1995)

ホスト：大滝哲也 (二松学舎大)・大滝倫子 (九段坂病院)

会 場：長野県諏訪郡原村「八ヶ岳自然文化園」

< 1 日目 > 9 月 6 日 (水)

オリエンテーション ホスト

報 告 高田伸弘：「ダニと疾患のインターフェイス」刊行の決算報告

一般演題

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 高田伸弘 (福井医大)     | 紀伊半島におけるリケッチア症およびライム病を考える                             |
| 藤曲正登 (千葉県衛研)    | 休耕田におけるアカネズミとタテツツガムシの分布について                           |
| 足立雅彦 (京都府保環) ら  | 京都府におけるツツガムシ相とその地域比較                                  |
| 中尾昌弘 (佐賀県衛研)    | 北部九州における <i>Ixodes</i> 属の分布                           |
| 山本 進 (鹿大・医) ら   | 鹿児島県本土域におけるマダニ相調査ならびにマダニ保有病原体の検索                      |
| 内川公人 (信州大・医)    | マダニ・ツツガムシ類のサンプリング法                                    |
| 堀内信之 (佐久総合病院) ら | 長野県佐久地方のマダニ刺症およびライム病の実態                               |
| 西山明雄 (中野区) ら    | マダニ耳内寄生の 1 例  |
| 山口 昇 (埼玉医大・短)   | マダニ咬着輸入例 (2)  |
| 磯貝恵美子 (北医大) ら   | 潜在するライム病の可能性と診断法の検討                                   |
| 磯貝恵美子 (北医大) ら   | ライム病の発病病理における血小板活性化因子 (PAF) の役割                       |
| 増沢俊幸 (静岡県大・薬) ら | 極東ロシアにおけるシュルツェマダニのボレリア保有状況                            |
| 馬場俊一 (日大・医) ら   | ライム病患者血清 (IgG) が反応する <i>Borrelia burgdorferi</i> 上の部位 |
| 矢野泰弘 (福井医大) ら   | 自然感染系野鼠類におけるボレリアの電顕的観察                                |

自由討論

東西南北地理条件でのダニの問題

< 2 日目 > 9 月 7 日 (木)

疫学ツアー

バスにて、富士見高原のツツガムシ病発生地、霧が峰山系を見学。夜は、会場内のレストランで立食パーティ。

一般演題

稲田貴嗣ら (神奈川県衛研) 神奈川県丹沢地域の紅斑熱群リケッチア保有マダニ類の分布

藤田博己 (大原研) ヤマトマダニから分離されたリケッチア類

馬原文彦 (馬原医院) 日本紅斑熱の媒介者：臨床からのアプローチ

特別講演 J. Kazar (Inst. Virol. Slovak Acad. Sci.) : Immunity and vaccination in Q fever

一般演題

関 詩穂ら (信州大・医) 高度の肝臓機能障害を伴った恙虫病の 1 例  
溝口二郎 (山形県衛研) 山形県のダニ疾患と疫学調査—ツツガムシ病

角坂照貴 (愛知医大) ツツガムシ幼虫の吸着とつづが虫病リケッチア—組織学的知見から—

多村 憲ら (新潟薬大) リケッチアの分類について

浦上 弘 (新潟薬大) 蛍光抗体法によるツツガムシ内リケッチアの検索法の検討とそれによる垂直伝播率の測定

吉家清貴ら (鹿大・医) 肺胞マクロファージにおける *Coxiella burnetii* の増殖性

J. Kazar (Inst. Virol. Slovak Acad. Sci.)  
Unusual outbreak of Q fever in Slovakia

< 3 日目 > 9 月 8 日 (金)

一般演題

片山 丘 (神奈川県衛研) たら PCR 法による剖検材料での恙虫病の診断

古屋由美子ら (神奈川県衛研) PCR 法による *Rickettsia tsutsugamushi* 陽性コロニー中のフトゲツツガムシにおける *Rickettsia tsutsugamushi* DNA の検出

石倉康宏ら (富山県衛研) PCR 法によるマダニ類からのリケッチア DNA

の検出

渡辺 護ら（富山県衛研）

PCR 法によるマダニ類からのライム病関連  
ボレリア DNA の検出

阿南貞雄（阿南皮膚科）ら

ダニとアトピー性皮膚炎：その病因論なら  
びに駆除対策について

高岡正敏（埼玉県衛研）

わが国における室内塵性ダニ類の地域性

須藤千春（名大・医）

ダニおよび真菌アレルゲンに対する血清  
IgE 抗体価の年齢推移

全体会議 組織委員会：本セミナーの趣旨が定着するに伴い、各分野 2 名体制とするため、不足していた臨床医学担当委員に大滝倫子博士が推挙され、支持された。